

子宮体癌の遺伝子変異と腫瘍関連免疫機構の関連性

## 1. 研究の対象

当院において1990年1月1日～2019年12月31日までの間に当院で初回治療を受けた子宮体癌の患者さんが対象となります。

## 2. 研究目的・方法

近年様々な癌種において腫瘍関連リンパ球が予後や治療効果に影響を与えることが言われています。また、がん遺伝子のデータベースより子宮体癌の新しい分子遺伝学的分類が提唱されており、予後と相関するとの報告もあります。

特にPOLE遺伝子やマイクロサテライト不安定性など遺伝子変異が子宮体癌において予後と相関することが報告されており、今後の免疫チェックポイント阻害薬の治療効果なども期待されています。

そこで本研究の目的は、子宮体癌における免疫細胞の分布・性状や遺伝子変異が病気の進行期や生命予後、臨床病理学的因子などと相関するかを検討するものです。研究期間は令和9年3月31日までを予定しております。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

既に摘出・作成された病理組織を研究に用います。保存検体をプロメガ社に送付してマイクロサテライト不安定性に関連する遺伝子変異の解析を行います。同じ検体で外部委託せず、当科でSanger法を用いてPOLE遺伝子の解析を行います。Sanger法とは目的のDNA領域をPCR(polymerase chain reaction)と呼ばれる技術で増幅し、電気泳動法を用いて遺伝子内部の塩基配列変化を判定する方法です。また診療録(カルテ)から病気の発症日(診断日)から死亡・再発・増悪までの期間、治療内容、抗癌剤治療の有無とその効果、癌のひろがり(進行期)、その他日常診療で得られた年齢や身長・体重などの臨床データ及び腫瘍マーカー等の検査データ等を採用し解析する予定です。

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先かつ研究責任者：

防衛医科大学病院 産科婦人科 講師 宮本 守員

住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

TEL：04-2995-1211（代表）内線：2363